

質問回答書

2020年7月22日

「全世界開発途上国における低炭素社会実現に向けた協力方針に関する調査研究(QCBS)」

(公示日:2020年7月1日/公示番号:20a00243)について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	企画競争説明書 p.11 3. 調査実施の留意事項	「再エネ導入拡大と低・脱炭素社会実現に向けたパイロット事業」に関し、予算は概ね 1,500 万円程度/件、合計二か国程度実施とされておりますが、提案段階においては、パイロット事業実施費用として一律、3,000 万円を計上することがすべての提案者に共通する条件となるとの理解でよろしいでしょうか？	ご理解のとおりです。
2	企画競争説明書 p.12 4. 調査の内容 (2)③課題・対応策の整理・分析、協力戦略の策定	「低・脱炭素サブクラスター」について、その活動内容の概要をご教示頂きたい。また、同サブクラスターの進捗や達成状況の評価にあたり、これまでに用いられた指標等がございましたら、併せてお教え下さい。	「低・脱炭素サブクラスター」から派生した案件、及び概要資料は下記のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">● プロジェクト研究「再生可能エネルギー大量導入時代の途上国支援のあり方にかかる調査研究」(配布資料を参照)● ヨルダン国「再生可能エネルギー系統統合と安定供給の促進プロジェクト」(https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2019_1700278_1_s.pdf)● エジプト国「エネルギー利用効率改善能力開発プロジェクト」(https://www2.jica.go.jp/ja/announce/pdf/20191009_195543_1_01.pdf)● チュニジア国「電力セクターに係る情報収集・確認調査」(上記のプロジェクト)

			<p>ト研究報告書の現地報告に概要記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● モンゴル国「電力系統の低・脱炭素化と安定化のための情報収集・確認調査」(上記のプロジェクト研究報告書の現地報告に概要記載) <p>同サブクラスターの進捗・達成状況を評価、指標はこれまで設定されておらず、今後新たに検討するものです。</p>
3	<p>企画競争説明書 p.13 4. 調査の内容 (3)①現地調査の実施(各回 2~4 回の現地渡航)</p>	<p>本項目で作成する協力プログラム(案)では、資金協力と技術協力双方につき、さまざまな支援策が盛り込まれるかと思料しますが、パイロット事業は、これらのうち、あくまで2回程度の渡航により実施、フォローアップが可能なものに限定されることになりませんか？</p>	<p>協力プログラム(案)を策定するための検証を行う目的でのパイロット事業ですので、調査期間中の現地渡航にて一定程度の効果の確認や方法論の検証が必要となりますので、十分な現地活動期間を確保するよう検討していきたいと考えます。なお、各渡航における協力プログラム(案)の策定とパイロット事業の業務は以下を想定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回目:協力プログラム(案)の提案・基本合意、パイロット事業の提案、基本合意 ・二回目:協力プログラムの合意、パイロット事業の開始 ・三~四回目:パイロット事業のフォローアップ <p>*より熟度の高いパイロット事業(案)については上記の工程よりも早く開始することも検討します。</p> <p>低・脱炭素の分野は民間事業が多く参入している/する見込みの高い分野です。パイロット事業(案)として、既に現地にて事業を開始している/開始の目途が立っているような事業を積極的に模索・提案していただき、パイロット事業としての実施を検討していきたいと考えます。</p>
4	<p>企画競争説明書 p.13 4. 調査の内容 (4)低・脱炭素エネルギーに関連する各種</p>	<p>以下の各項目の調査実施期間中における数量/頻度につき、大凡の目安がございましたらご教示下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスター協議の回数:2回 ・BBLでの勉強会:5回程度 ・外部有識者セミナー等の実施回数:5回程度 ・要約情報を発信する頻度:毎月1回

	情報分析・取り纏め・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルタントによる資料作成が求められるクラスター協議の回数 ・BBL での勉強会、外部有識者セミナー等の実施回数 ・低・脱炭素に関する技術、政策、制度、ビジネスにおける最新情報に関する要約情報を発信する頻度 	
5	<p>企画競争説明書 p.13</p> <p>4. 調査の内容</p> <p>(4)⑤遠隔指導に関する方法論・内容の分析</p>	<p>ここでの「遠隔指導」は、コンサルタントによる貴機構関係者への指導との理解でよろしいでしょうか？</p> <p>また、「方法論・内容の分析」とありますが、ここでの「方法論」とは、具体的にはどのようなものを意図されていらっしゃるのでしょうか？</p>	<p>「遠隔指導」は、低・脱炭素の分野において JICA が技術協力、研修を行うにあたって、途上国側の関係者に対して実施する指導を指します。そのような遠隔指導を実施するにあたって、効率的、効果的なツール・形態、スケジュール、要員配置、教材、デリバリーの方法、評価方法等についての分析を意図しています。なお、本件は、弊機構でも各種技術協力プロジェクトや調査で試行段階にあるため、今次調査によるご提案は、今後より効果的な協力を企画、実施していくアイデアとして活用させていただくこととなります。</p>

以上